

イチゴ新品種 ‘とっておき’

1 新しい品種の内容

(1) 背景・目的

現在のイチゴ品種は、暖地で育成されたものが多く、鳥取県の気象条件では低収量、品質が悪いなどの問題がある。本県の主要品種‘章姫’は、酸味が少なく甘みを強く感じる品種で収量が高いものの、春先に果実糖度・硬度の低下が顕著であり品質面での問題がある。また‘章姫’は果実硬度が低く輸送性に劣るため、県外への出荷が難しい現状がある。そこで本県の気象条件においても多収・高品質な品種の開発を行った結果、冬期間の草勢が強く‘章姫’並の収量、収穫期間を通して食味が良く、且つ果実硬度が高く輸送性に優れる‘とっておき’を育成したので紹介する。

(2) ‘とっておき’の要約

- 1) 果実底部が豊艶な円錐形、果皮色は橙赤～濃赤色、果肉色は白色、果実内の空洞は見られない。果実糖度は‘章姫’並で、やや酸味がる。果実硬度は‘章姫’に比べて高い。
- 2) 6月中～下旬の受苗では11月下旬から収穫ができ、年内収量は‘章姫’より多い。総収量は‘章姫’に比べやや低いが、上物率は高い。

2 試験成果の概要

(1) ‘とっておき’の育成経過

‘章姫’を交配親として、果実形態に優れる「E0836-12」、糖度が高く食味に優れ早期収量が高い「F0851-24」の2系統を育成した。平成18年に両系統を交配し、‘章姫’を対照として早生性、収量、果実品質に優れる‘とっておき’を選抜した。

(2) ‘とっておき’の特性

- 1) 果実の底部が豊艶な円錐形（‘章姫’は長円錐形）、平均果重は‘章姫’より大きい。果皮色は橙赤～濃赤色、果肉色は白色、果実内の空洞は見られない（写真1、写真2）。
- 2) 6月中～下旬の受苗では11月下旬から収穫ができ、年内収量は‘章姫’より多い。総収量は‘章姫’に比べやや低いが、上物率は高い（表1）。
- 3) 果実硬度が高く、糖度は‘章姫’並で、やや酸味がある。栽培期間を通して、果実品質のバラツキが小さい（表2）。
- 4) 食味パネルテストの評価は、‘章姫’に比べ高かった（表3）。
- 5) 花芽分化期は、9月上旬～中旬頃。花房当たりの花数は、‘章姫’に比べ少ない。
- 6) 冬期間に無加温・無電照でも‘章姫’並の草勢がある。
- 7) ランナーの発生数は多く、夏期高温時でも採苗に優れる。
- 8) 炭疽病には罹病性であり、無病親株の確保、定期防除が必要である。

(3) ‘とっておき’の栽培

‘とっておき’は、9月上中旬に定植、11月下旬～翌年5月下旬頃まで収穫・出荷のハウス促成栽培に適する。高設、土耕のどちらでも栽培可能であるが、高設栽培では花梗おれが発生して果実品質が低下することがあるので花梗おれ対策が必要である。



写真1 'とっておき'



写真2 果実比較

表1 上物収量の比較(栽培:2013年9月~2014年5月、ピートベンチ栽培)

品種・系統	収量(g/株)				果数 (個/株)	1果重 (g)	上物率 (%)	L(16g)以上 割合(%)
	前期	中期	後期	合計				
とっておき	47.4	368.9	298.4	714.7	50.0	14.3	93.6	53.7
章 姫	23.4	455.9	263.5	742.8	55.8	13.3	88.2	48.0
紅ほっぺ	25.1	233.6	405.1	663.7	49.4	13.4	81.4	43.9

注) 前期: 収穫開始~12月、中期: 1月~3月、後期: 4月~6月

表2 収穫開始日、果実品質の比較(栽培:2013年9月~2014年5月、ピートベンチ栽培)

品種・系統	開花日	収穫 開始日	果実糖度(%)				果実硬度(N)			
			1月	3月	5月	平均	1月	3月	5月	平均
とっておき	10月27日	11月26日	12.2	11.3	10.5	11.3	1.47	1.42	1.39	1.43
章 姫	10月30日	12月4日	12.4	12.4	9.8	11.5	1.21	1.08	0.85	1.05
紅ほっぺ	10月31日	12月8日	12.5	11.6	10.2	11.4	1.70	1.60	1.41	1.57

表3 食味パネルテスト(36名)

品 種	甘味	酸味	香り	食感	果色	果形	総合
とっておき	3.6	2.9	3.1	2.8	3.0	2.8	3.6
章 姫	3.5	2.0	3.1	2.0	2.8	3.5	3.3

注) 各項目を5: 良い~3: 普通~1: 悪いの5段階で評価した。

3 普及の対象及び注意事項

(1) 普及の対象

県内全域のイチゴ農家

(2) 注意事項

‘とっておき’は品種登録出願中である(出願公表日: 2016年2月27日、品種登録出願番号: 第30820号)。

‘とっておき’は炭疽病に罹病性であるため、無病親株の確保、定期防除を徹底する。

4 試験担当者

野菜研究室 主任研究員 白岩裕隆

室 長 石原俊幸 (現 農業振興戦略監とっとり農業戦略課 専技主幹)

研究員 前田英博 (現 農業試験場有機・特別栽培研究室 室長)

研究員 小西 実 (現 農業試験場作物研究室 研究員)

研究員 谷口 恵 (現 伯耆町役場産業課 主幹)

研究員 森田香利 (現 日野振興局農林業振興課農林業振興室 農林技師)